



あじあ号から新幹線へ

参議院議員
客員相談役

藤井基之



昨年の最大のビッグニュースは、二〇二〇年の東京オリンピック開催が決まったことでした。滝川クリステルさんの「お・も・て・な・し」は流行語にまでなりました。

今からちょうど半世紀前の昭和三十九年（一九六四年）、東京オリンピックが開催されました。私は、まだ高校生でしたが、円谷幸吉選手のマラソン銅メダルや、「はだしのアベベ」が金メダルを取ったことなど、鮮明に覚えています。

同じ年、東海道新幹線が誕生しました。十月一日、東京を一番列車が発車、最高時速二〇〇kmで東京―新大阪間を「ひかり号」が四時間、「こだま号」が五時間で走りました。これまた今年がちょうど五十年目です。それまでは、大阪から東京に出張するには、夜十時過ぎの夜行列車で大阪を出发、翌朝六

時ごろに東京につき、朝食を食べながら会社が開くまでの時間をつぶすのがサラリーマンの定番でした。東京オリンピックと新幹線誕生をバネに、日本は、一気に高度経済成長期へと突入していきました。

さて、その新幹線ですが、その萌芽は、実は戦前の「満州帝国」にあった、と言われています。満州事変等を機に日本は大陸に進出、昭和七年、中国東北部に「満州帝国」を建国しました。満州帝国の是非についてはいろいろな議論がありますが、それはさておき、その満州国で、昭和九年（一九三四年）、満鉄の大連―新京間を結ぶ超特急列車が誕生しました。その名は「あじあ号」。今からちょうど八十年前のことです。当時、ヨーロッパもアジアも、第二次世界大戦を前に、きな臭い戦時的な状況にあ

りましたから、関東軍は、人を運ぶだけでなく軍事物資などを高速で運ぶ「弾丸列車」の創設を期待していたのです。

あじあ号は、最高速度二二〇km、東京―大連間七〇kmを八時間三十分で走りぬけました。当時、イギリスのロンドン―エディンバラ間に運転していた特急列車「フライング・スコツマン」が、蒸気機関車でしたが最高時速一六〇km以上で走るなどの例がありましたから世界最高というわけにはいきませんでした。日本国内を走る国鉄の特急列車より時速一四〇kmも早かったといえます。流線型で、客車の設備を最新式、全客車が密閉式の二重窓で、空調設備が付き、室温は年中快適に保たれていました。

このあじあ号を実現させたのは、満鉄の理事十河信二、後の第四代国鉄総

裁でした。国内の鉄道が時速一〇〇km前後にとどまり、ヨーロッパのような高速鉄道ができなかった理由は、国内の線路のレール間の幅がヨーロッパの鉄道より狭いことにありました。

鉄道には、レールの幅の広さにより、狭軌（レールの幅が一〇六七mm）、標準軌（一四三五mm）、広軌（一五二四mm）の三段階があります。満鉄はその「標準軌」で線路が整備されていたのです。鉄道院の初代総裁を務めた後藤新平は、ヨーロッパで普及している標準軌の日本での敷設を目指しましたが実現しませんでした。

さて、せっかくの弾丸列車の実現でしたが、敗戦とともに、全ては無に帰してしまいました。戦争が終わり、復員した十河は国鉄に戻り、昭和三十年（一九五五年）、七十一歳で第四代総裁に就任します。そして、満鉄の弾丸列車「あじあ号」をこの日本で復活させる、と考えます。十河は、国内の狭軌道とは全く別ルートで、わき目も振らずに新たな標準軌の敷設に邁進し、ついに昭和三十九年（一九六四年）、日本を世界第二の経済大国に押し上げる機動力となった「新幹線」、当時、世界一の最高速度時速二二〇kmで突っ走る、弾

丸列車。を実現させたのです。今、日本では、東京―名古屋間に超電動リニアによる中央リニア新幹線を二〇二七年までに創設する計画が進められています。これまでの有人による試験走行で日本のリニアは世界最高の時速五八―km、羽を付けたら空を飛ぶのではないか、というスピードを達成しています。

二〇二〇年東京オリンピック、二〇二七年、リニア実現。スポーツと科学が日本を元気にしてくれます。高齢化社会を、元気で、夢ある、長寿社会に。政治家もうかうかしてはられません。

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ

<http://www.mfujii.gr.jp/>

- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

- 活動報告
参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

- 経歴
昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和44年 厚生省入省
平成9年 厚生省退官
平成9年 財団法人 ヒューマンサイエンス 振興財団 専務理事
平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人 日本薬剤師会 常務理事
平成13年 参議院議員(1期目)
平成16年 厚生労働大臣政務官 (平成16年9月~平成17年11月)
平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
平成22年 参議院議員(2期目)
平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長

- その他
慶應義塾大学薬学部 客員教授
昭和大学薬学部 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
京都薬科大学 客員教授
近畿大学薬学部 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師